



雨の日も、これなら安心!

本格的な夏空となり、今年はいつの間にか「梅雨」が終わってしまいましたが・・・

「雨の日に、少しでも濡れないように!」と、梅雨の対策として購入した便利グッズをご紹介します。

▼登山用のレインポンチョ

いなざわ特別支援学校では昇降口から送迎車までの距離が長く、傘を持っていない、もしくはさせない子は必ず濡れになってしまうので、写真のポンチョを人数分用意しました。



着脱がしやすく、両手が空きます。足元まで覆えて、リュックもカバーすることができます。

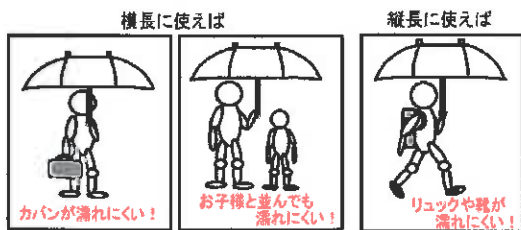
土砂降りの日でもほぼ濡れることなく移動でき、買い物などの外出支援の際にも積極的に活用しています。

▼カップル用(?)傘

ポンチョ検討の際、支援者が大きめの傘を持ってはどうか?という提案もあり、調べてみると「2人用の傘」というものを発見!



個人的に使って試しているのですが、これ、とても安心感があります。↓



梅雨は終わりましたが、次は台風の季節。ご家族や支援者の方の参考になればと思います。

デイサービス通信

デイサービスの食事

デイサービスの昼食で7月より『ミニ井』を出しています。

先日はめずらしい「レタス丼」に利用者さんも、「これどうやって作るの?」「おいしいねー!」と、ひき肉にレタス、もやしなどの野菜と一緒に炒めた具がご飯のついで、とても食べやすい味でした。

『ミニ井』の他に、『ワンプレートランチ』や『テーブルバイキング』など週ごとに工夫をして提供しています。

「家ではこんなに凝ったことはできないから、デイの食事が楽しみ・・・」と厨房のスタッフが腕を振るってお出しする食事は、デイサービスでも評判です。

7月より、『テーブルバイキング』の取り皿を新調しました。四角いプレートで、3つに仕切っており、何より軽いので利用者さん自身がお皿を持って取り分けできます。プレート皿の中で、それぞれが個性的に盛り付けしたり、スープのカップごとのせてみたりといろいろ楽しんで食事されています。デイサービスの中では、しっかり食事できて『夏バテ』を感じさせない元気な皆さんです。

中部中のボランティア生が研修



セタコンクール「優秀賞」いただきました

心っれづれ

夏の思い出

夏の太陽がキラキラと照り付け、焼けるような暑さに身もだえする日々が続いています。もう日本は亜熱帯になっていくのでしょうか。

セミたちの泣き声はめっきりさみしくなり、ジージーとうるさいぐらいの泣き声がかえって懐かしく感じられます。入道雲を見ては夕立が来るのかと騒ぎ、雷様におへそを取られないようにとズボンの中に洋服を入れていたのはいつ頃のことでしょう。

麦畑に入って穂を抜いた茎でプープーと吹き鳴らし、タモを片手に用水に入り小魚を取りに熱を上げたこともあります。タモを持ってせき止め役の人と、バシャバシャと足で追い込む人と2人以上は必要でしたが、たくさん小魚が取れた時の誇らしさは今でも忘れることができません。川では、「岩をたたくとナマズがびっくりして浮いてくるよ」と教えられ、せっせと岩をたたいてはナマズが浮くのを待ちました。海では素潜りやでんぐり返りに夢中になりタツノオトシゴを見ては竜の子供かと思っただけの子供時代を思い出します。隠れ家造りは本当に夢中になりました。そこら中にあるものが材料です。板切れやら、折れた木やらを集め縄で縛った家はなかなか見事でした。隠れ家の中でどんな遊びをしたのかは想像してみてください。

今の私は孫たちを遊び相手にしています。ゲームに飽き、ドッチボールに飽いた子供たちと、かくれんぼをしたり缶けりをしたり『ジョンジョン隠し』や『石けり』をしたり、用水で魚取りをし、コオロギやバッタを追いかけながら今度はどんなことをして遊ぼうかと考えています。子供たちが昔遊びを面白がってくれる間は、(せめて小学生の間は)うんと遊んでおきたいと思うのは、老年に向かっている悲哀からでしょうか。 **チアフル 北島 正枝**

ヘルパーだより

NO. 27

Aさんは、障害福祉サービスの家事援助を週に1回(1時間30分)と通院乗降介助を利用して見えます。

今年の3月より、まごころのヘルパーとして勤めた私にとって、最初に関わらせていただいたのがAさんです。

家事援助では、近所のスーパーへキャベツ・玉ねぎ・豆腐・納豆等、10品目以上の1週間分の食材を買い物します。献立については、病院からの食事指導に沿ってAさんがご自身で1週間分を考えられ、購入食材のリストも紙に書いて用意をさせていただきます。野菜中心の健康メニューで、塩分控えめ、栄養バランスも考慮されて、ご病気も随分と良くなりました。

度々私が買い物間違いの失敗をしても「失敗しない人なんていないのよ。」と私の失敗までカバーして、食材を使いこなしておられます。

お一人暮らしで、猫をとっても可愛がっておられ、昨年大病で入院される際には、手離すことも一時は考えられたそうですが、まごころへ相談され、入院中の猫の世話を「在宅支援」で猫好きのヘルパーがお手伝いさせていただきました。私も猫が好きなので、訪問が楽しみです。

通院乗降では、複数の科を受診されてみえ、随時連絡を受けて希望の時間に沿えるよう皆で努めています。



ご本人からのことば・・・

週一回「おはようございまーす。まごころです」の声は、まるで娘が訪ねて来てくれた様で、私の一番の慰めです。昨年の入院時も、スタッフさん一丸となって細やかで柔軟なケアをしてくださり、心安らかに治療に専念できました。ありがとうございました。これからも宜しくお願いします。